

「北の聲アート賞」を受賞 今年に入って3つめの栄誉

北海道の芸術家・文化人らでつくるサッポロ・アートラボ（柴橋伴夫代表）から、第2回「北の聲アート賞／きのとや賞」が当NPOに贈られました。11月2日に札幌市で行われた受賞式では、吉岡理事長をはじめ会員・役員6名が出席し、洋菓子のきのとや・長沼社長から賞金30万円を頂きました。

今年2月には空知しんきん産業文化振興基金から「ふるさとづくり大賞」を、5月には国土交通省から「都市景観大賞（景観教育・普及啓発部門）優秀賞」を頂いており、これに次ぐ今年3つめの受賞となりました。

このような相次ぐ受賞は、当NPOの活動の成果が広く世間に認められてきたことの現れであり、会員の皆さんのご支援の賜と感謝しています。

会員交流会&忘年会を開催 12月6日(金)19時からセンターで

3連続受賞を祝い、NPO会員限定の「交流会&感謝の集いの忘年会」を開催いたします。楽しいひとときを一緒に過ごし、交流を深めたいと思っていますので、奮ってご参加下さい。

- 12月6日(金)19:00～21:00
- 炭鉱の記憶マネジメントセンター
- 参加費2,000円、非会員の同伴歓迎

緊急雇用事業を受注 炭鉱の記憶のツアーの事業化に弾み

6月24日に道空知総合振興局との間で「そらちde産業観光促進事業」の受託契約を締結しました。契約金額は11百万円で、これによって炭鉱の記憶など産業観光を来年度に向けて本格展開するための基盤づくりに本格的に取り組むこととなります。

契約締結に伴い2013年予算の修正が必要となりましたので、定款第38条に従って9月23日に開催した第4回理事会において

「2013年活動予算を臨機に措置すること」を決議しました。新旧予算案の概要は、次の通りです。

科目	更正前	更正後
経常収益		
受取会費	1,200	1,000
事業収益	3,500	7,500
寄付金	284	69
補助金	7,315	13,000
助成金	800	1,000
その他	1	1
経常収益計	13,100	22,570
経常費用		
人件費	5,700	7,700
出版事業	500	500
遺産保全事業	1,500	1,500
学術支援事業	1,000	3,600
市民連携事業	800	1,000
拠点運営事業	1,800	1,300
道史連携事業	300	600
管理費	1,500	4,000
経常支出計	13,100	20,200
当期正味財産増加額	0	2,370
前期繰越正味財産額	1,614	1,614
当期正味財産	1,614	3,984

単位：千円

11月30日(土) 炭婦協シンポ 炭鉱生活を守った女性たちの貴重な証言

NPOでは、アートプロジェクトやまち歩きなど、地域の潜在的な魅力を引き出す活動を展開する一方で、地域に埋もれている歴史的な事象を記録し後生に伝えるための地味な活動も継続的に行っています。

その一環として、社会学を専攻する全国の大学教員で組織されたJAFCOF（産炭地研究会、代表：中澤秀雄中央大学教授）の活動をサポートしてきました。

このたびJAFCOFでは、研究成果の一環として、炭鉱主婦会・炭婦協に関するシンポジウムを開催することとなりました。炭鉱主婦会・炭婦協は、旧産炭地域での市民活動の嚆矢として今日的

に着目されるべきものです。5炭鉱（空知・幌内・三井芦別・赤平・太平洋）から5名の元炭鉱主婦会会長が集まるというような機会は二度とありません、お見逃しなく。

- 11月30日(土)13:30～17:00
- 岩見沢市コミュニティプラザ
- 入場無料
- 終了後には懇親会を開催(1,500円)

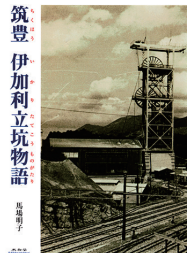
センターは冬季営業時間に

マネジメントセンターは、11月10日から来年3月末まで、冬時間での営業(10:30～17:00)となります。定休日は火曜日(祝日は開業)で変わりありません。

立坑をめぐる物語

馬場明子著『筑豊 伊加利立坑物語』

三井田川炭伊加利立坑(1955年)を中心に立坑を巡るドラマを描いた『筑豊 伊加利立坑物語』(馬場明子著・未知谷刊・1,680円)が出版されました。



伊加利立坑は、住友奔別立坑と同じドイツGHH社の技術を導入して建設され、田川炭閉山後には三池炭に移設されたという異色の立坑です。本の中では三井系の10本の立坑建設に携わった技術者・武安義勝さんの話を軸に、伊加利・奔別の両立坑に携わったドイツ人技術者を探し出す逸話や、住友奔別出身の川俣正さんが田川市で展開した田川プロジェクトにまで話が及びます。著者の馬場さんから寄贈された本は、センターでご覧頂けます。

人事異動

3月31日▷退職・雇用期間満了(事務局長) 佐々木尊洋(佐々木さんは7月から一般社団法人いわみざわ駅まるプロジェクト事務局長に就任)

7月25日▷採用(3月23日までの期間限定:事務局長) 谷中章浩、同・倉知素子

8月2日▷採用(3月23日までの期間限定:主任研究員) 川口里絵、同(事務局長) 秋元さなえ



事務局スタッフから一言

7月末から新職員が加わり、今年度の事務局はますますパワーアップしています。センター職員から寄せられたコメントをご紹介します。

酒井裕司 常勤理事・事務局長

事務局長の酒井です。今年度も“外”での活動・対応が多く、マネジメントセンターで皆様とお会いできる機会は少ないと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。



私の主な担当としては、札幌市立大学主催の「奔別アートプロジェクト2013」の開催準備、運営、撤収までの一連業務、また連動する「アートマネジメント講座」のサポートです。

“炭鉱の記憶”を舞台としたアートプロジェクトは、昨年に続き三笠奔別の住友炭鉱跡のホッパーを舞台に9月21日より11月3日までの土・日・祝の16日間にわたって開催しました。現代芸術の魅力とともに、炭鉱という産業は終了した空間が、“別の目的・活用により、非常に価値ある空間”として可能性があることを多くの方々にお伝えできたかと思ひます。

今年度も様々な活動と共に、マネジメントセンターへのご来館、NPOへのご理解、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

前田亜紀 事務局次長

マネジメントセンタースタッフとして、早いもので5年目に入りました。



今年度は、産業観光を教育に活かしたヘリテージツーリズムの事業化に向けた業務を担当します。空知には、炭鉱、鉄道、農業と、空知の地盤をつくった産業の姿がいまもたくさん残っています。

この事業を通して、NPOがストックしている空知の産業の素材をデータ化し、中学生から大学生、大人まで、様々な知的関心に応える多様なメニューを提案していきます。そして来年度以降、「炭鉱の記憶ツアーズ（仮）」へとつながります。

北口博美 事務局員

いつもお世話になっています。事務局員の北口です。2009年8月、岩見沢にNPOの拠点であるマネジメントセンターが開設されてから、あっという間に4年が経ちました。



私が「炭鉱の記憶」に関わるもっと以前から、「炭鉱の記憶」の活動を支え、応援してくださっている皆さん、マネジメントセンターが出来た

事により、繋がりを持つようになっていただいている皆さん、暖かいご支援をいただき本当にありがとうございます。

多くの方々の、様々な形のご協力により、ここ数年、空知の「炭鉱の記憶」というものが注目を浴びてきているのだと思ひます。今後も引き続き、どうぞよろしくお願ひ致します。

川口里絵 主任研究員

8月よりセンターに加わりました川口と申します。



大学卒業後、環境NPO団体に勤務し、赴任先が北海道になったのをきっかけに、移住して10年になります。NPO団体退職後は、民間企業（緑化コンサルタント・まちづくり観光コンサルタント）で働いてまいりました。

子どもが小さく、イベントのお手伝いやフィールドに足を運ぶことが難しいのですが、炭鉱に関わるあれこれ、空知の歴史・風土・美味しいものなどをセンターのみなさんや来館された方たちに教えていただきながら、センターで事業にかかわる書類作りをさせていただいています。

久々のNPOの現場感やアイデア溢れる方たちに囲まれにわくわくしています！みなさん、どうぞよろしくおねがひいたします。

佐藤真奈美 研究員

今年1月より、マネジメントセンターのシフトに入らず、プロジェクトベースで活動する立場になりました。



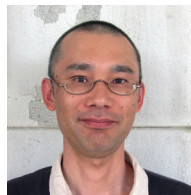
現在は主に「炭鉄港」や、本年度札幌市立大学とともに取り組む、文化庁事業の「空知旧産炭地域における「炭鉱の記憶」をキーワードにした地域再生のためのアートマネジメント人材育成事業」に携わっています。

今年で丸5年を迎えた夕張清水沢のお付き合いは、市内の他団体と一緒に進むことも多くなり、みなさんとともに整備を進めるズリ山は、修学旅行の見学コースになるまでになりました。

現場でうろちょろしていることが多いですが、たまにはセンターのカフェでみなさんにコーヒーでも淹れて差し上げたいです。今後ともよろしくお願ひします。

谷中章浩 事務局員

埼玉県出身で、岩見沢に住んでからは15年程になります。元々IT関連の仕事をしていましたが、歴史・文化方面への興味から大学・大学院で学びなおし、幾つかの職を経て今回NPO事務局員として参加させていただくことになりました。



「ぶらぶら歩き」や昨年の「空知の記憶展」、またアートプロジェクトのお手伝いなど、NPO

主催のイベントに以前から参加させていただいており、そのスタッフへ自分が加わることに不思議なご縁を感じます。

近代化の黎明期から高度成長期にかけての北海道というエネルギッシュな時代性・場所性や、その時の息吹を今に伝える産業遺産への興味関心は勿論強いですが、その他に街歩きや路上観察にも興味があります。街の中にいくらでも存在する普通の物件に、普通とは違った視点からの面白さを見出して、個人的に鑑賞・研究しています。

NPO会員の皆様や先輩スタッフの皆さんに叱咤激励いただきながら、NPOのミッションを遂行するために尽力する所存です。よろしくお願ひいたします。

倉知素子 事務局員

今回の新規メンバーで唯一、全ての方にはじめまして、を申し上げます。10歳～高校卒業まで、および9年前から現在まで岩見沢市在住ではあるものの、炭鉱に関してはほとんど知識がなく、マネジメントセンターも面接時に初めて訪れた、という有様です。



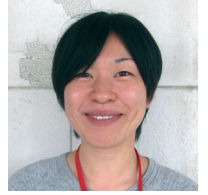
故に現在一生懸命勉強中です。調べていくにつれ、こんな出来事が、こんな遺構が、思いのほか身近に存在していたのか、と興味深く感じられるようになってきました。

そんな私は、教育旅行プロジェクトで収集された情報のデータベース化、および印刷物のデータ作成、等を担当いたします。

これまでの経歴で培ってきた技能を活かし、新しい知識も増やしながら、プロジェクトの成功に向けて力を尽くし、良いものをつくり上げるべく努力していく所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

秋元さなえ 事務局員

1988年江別市生まれの25歳です。2007年から2012年まで、北海道教育大学岩見沢校にて、現代美術と美術教育を学びました。子どもと一緒に創作活動をするのが好きで、これまでナキウサギやマンモスなど、北海道の環境をテーマとした小学生向けワークショップの実施に関わりました。



そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターとの出会いは、2011年の卒業制作展で、石蔵をギャラリーとして使わせていただいた時から。昨年度は、奔別アートプロジェクトのお手伝いや、岩見沢北真小学校の立坑写真会講師をさせていただくなど、ゆるやかなご縁を感じた1年間でした。

今年度は、8月よりマネジメントセンターのスタッフの一員として、より主体的に空知のまちづくりに関わっていくこととなりました。頭をやわらかく、フットワーク軽く、何事も経験！を信条に頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。